第7回ホスピ川柳　1次選考通過作品

株式会社 名優

作品	雅号
毎日が 非日常だと 忘れない	あーる
消えゆく灯また灯す日を信じつつ	蒼音
ありがとう三回言って逝きました	蒼い空
「ありがとう」　なんて父さん　らしくない	あおちゃん
動けない あなたのもとに 走りゆく	青トウガラシ
あの鳥が　私とともに　空を往く	蒼豆
夢の中　じいじが蝉を　捕まえた	赤めがね
トイレ立つ父の両手のあたたかさ	あきら
昏睡の　父が微笑み　渡る川	ake
忘却のさきにいつものその笑顔	あさ
来年も孫でいたいと泣いた夏	浅井誠章
ごめんなさい　看護師として　謝ります	あさこ
介護する その人もまた 介護され	あさのん
また来るよ　外は晴天　母は雨	明日があるじゃん
病気して　弱い自分が　もう一人	明日勝
温もりが　父の最期の　置き土産	あっきー
「大丈夫」　父に最期の　嘘をつく	アップダウン
言えねんだ　昭和男は　有難う	しん
生かされて　まだ逝かないで　逝かないで	天音
時計より　命を見てる　この現場	あゆみ575
握る手に　落ちた涙が　光ってる	アルサプア
優しい嘘　ついて御免と　言わせてよ	あるふぉんそ
天国で　会えるその日が　いつか来る	あんどらごら
息を継ぐ　合図を待って　夜が明ける	医川
介護するわれより食べるわが母よ	石井　香久
帰りたい　出来る事なら　帰したい	いたすいたすけ
目をつむる　母にはじめて　『ありがとう』	いっちー
陰になり日向になりの介護です	いつはるひか
死にたいと沈む夕日を引き上げる	伊藤聖子

作品	雅号
ありがとう　その一言で　夜が明ける	いぬのか
ありがとう聞こえなくても言わせてね	居間正三
「ありがとう」 そのひと言が　薬です	伊予の風
やっとでた　便と一緒に　涙する	岩音
お見舞いに　「さよなら」だけは　言わないで	いわG
おはようと　今朝も言えたと　泣き笑い	vuvu
世話かけて すまないなんて オレ息子	うっしゃん
失って　初めて気づく　当たり前	うなぎ大好き丸
わかってよ　こちらも同じ　人だから	うなちゃんまん
名前だけ　覚えてくれて　泣きました	梅村颯
どんどんと　変わるあなたを　おぼえてる	ウリ
平凡に　過ごせた今日に　ありがとう	えいこん
通帳はあそこと言って眠る母	詠楽堂
沈まない　太陽でいて　お母さん	江戸川散歩
泣きたくて泣いてる母の背をさする	えぺ
どなたさん？ それでも親は あなたです	えみりぃ
ではまたな　ここはあなたの　家なのに	Emily
六度目の　最期の桜　来年も	MD
指先で最後に書いたありがとう	エメラルド
ありがとう　最後の笑顔　忘れない	エメラルドグリーン
壊れても 壊れかけても 母は母	エリカ
振りむけば　今を忘れる　お母さん	エリリン
父看取る　一緒に泣いて　くれたひと	エリんこ
何度でも　初めて出会う　母となる	黄金肘
声なき手　にぎるあたたか　生きている	大林ひかる
点滴の　しずくに託す　生きる意志	おかまさこ
うすれゆく 母と唄って 児に還る	男鹿ワタル
祖父に似た　声に赤らむ　祖母の顔	翁シン
まだ逝くなもっとさせてよ恩返し	置楽
話せない母に指切り　離さない	奥の寄道
母さんの　おかえりなさい　聞けぬまま	おくら
いつまでもデカい背中の父でいて	036
ばあちゃんの笑顔はいつも日本晴	小島芙美子

作品	雅号
ひと休み　その瞬間に　急患だ	オタ少女
側にいる　それが私の　出来る事	お茶
ありがとう　言えぬままでも　伝わって	おっとりねこ
母の背の　荷物を下ろし　父が逝く	踊　ヘプバーン
来世でも　あなたは僕の　母さんだ	オドントグロッサム
大嫌い　でも生きていて　お父さん	かあしゃん
今日の母今日の私で介護する	ガイア
また聞いた　いいえ私に　また効いた	怪傑もぐり３３世
思い出も　消失するの? 認知症	傀儡師
病室で　母が子になり　子が母に	カエデ・チャーチャ
そばにいる　ただそばにいる　最後まで	かえるL
「頑張れ」より 「頑張ったね」と 言われたい	かおり45%
暗闇や夜の廊下で母を待つ	柿本佐留
名前より 笑顔覚えて くれていた	花京院
杖つく手　昔つないだ　あなたの手	かくかくしかじか
あまりにも　準備がよくて　また泣ける	家具屋のねずみ
にっこりした　今日の笑顔は　何？母さん	かぐや姫
ひと筋の　なみだ無言の　ありがとう	カジ
病室の空気を変える空の色	かじなみと
母逝くな　どうかいさせて　子のままで	Kazu
不老まで望まないから不死でいて	カズマゲドン☆
今日もまた癒した人に癒される	風
いつからか　娘の私　お母さん	風灯
ほら母さんあそこに蛍父さんだ	風まかせ
ありがとう　言葉なくても　ありがとう	かたこり
会う度に　私を忘れ　思い出す	カトさ
忘れない　強い親父の　あの姿	カトラス
辛苦背に　最終章を　閉じし母	かばくんのかば
いかないで　もう少しだけ　ここにいて	ガブリータ
昨日より　ゆっくり歩く　その勇気	かほこ
のべた手を払った人が泣く夕べ	神丘 風
いるならば神よ私を身代わりに	かめきち
誰だっけ　そんな言葉が　突き刺さる	かめんさん

作品	雅号
介護する　母に言われた　頑張るのよ	加代ちゃん
子を産んで育てて枯れて逝った母	カラスの行水
この背中押してくれたよその背中	かりゆし
手を焼いた　娘を今は　困らせて	カワサン
要介護　向こう三軒　両隣	蛙屋　柳斎
嫌ですよ　夫唱婦随で　要介護	蛙屋　柳女
渡し賃　やらんぞ爺よ　まだ逝くな	kawase
母に似た人が次々入所する	河内坊
車椅子　握る手の皺　じっと見る	川の流れのように
最後まで母の手だけは離さない	川端　日出夫
あと何度桜一緒に見られるか	川村栄
月が日が覗く病舎の白衾	菅恵里子
ナースコール　呼ばれていくと　「さみしくて」	かんかんかん
やり切って　泣いた日今は　過ぎし日に	完熟きのこ
瓶の蓋開けることしかできぬ俺	菅高栄
名も知らぬ　あなたの声に　救われた	きーちゃん
この歩み　止めてなるかと　薬飲む	キイロイトリ
最期まで　お世話になった　感謝です	木子
時間くれ最後に感謝伝えたい	北美三風
いつまでも　甘えたかった　最後まで	きなこ
「もういい」と　どうか貴方は　言わないで	きなこのこ
手の荒れも　勲章だねと　笑い合う	気分は上々
しっかりと　人生の幕　見届けます	キューと
「どちらさま」ひとり息子は絶句した	キヨ
先みえぬ　トンネルに入る　介護かな	ぎょうまん
易怒性が　母の介護で　溶けていく	霧の小町
一歩ずつ　頑張れじゃない　頑張ろう	金太郎のじいちゃん
覚悟して　親の手取った　はずなのに	ぐーさん
もう一度声を聴かせてここにきて	くうたろす
ここでなら　話せるボクの　悩み事	くがかん
静けさの　中で命を　織りかえる	愚月
父追って　無上の母も　また無常	草津亭
100万回　言っても足りぬ　ありがとう	草取り名人

作品	雅号
ありがとうまだ言わないで傍に居て	椚
旅立ちは　終わりじゃないよ　「じゃあまたね」	熊猫太夫
大丈夫　忘れられても　忘れません	くまのこ
便りない　それが元気と　言い聞かす	ぐりむろ
天国は　逃げないだから　まだ逝くな	けい
居てるだけ 次会う時も 生きていて	けいぢろう
何思ふ　春風に問う　最期の日	ゲジなん
夢で会う　それが最後に　なるなんて	削鰹
母乗せて押す車椅子わが支え	月華
もう居ない　母はまだいる　俺の中	元気マーちゃん
握る手に　温もり残し　旅に出た・・・	kensona
独りには　させない母が　一人逝く	けんちゃん
引き出しに　仕舞い忘れた　俺の過去	コアラ
諦めが　悪い親父が　俺は好き	こいちゃん
消えそうな　吐息で紡ぐ　ありがとう	こうちゃんママ
補聴器の　替えの電池を　残し逝く	ここあ
諦めが悪い私はまだ生きる	五香水貴
学んだよ　命は急に　なくなると	心笑
涙より　先に手を振る　夕しぐれ	ココママ
握る手が　明日を生きろと　物語る	コスモス
無理せずに無理をしろよと療法士	木立慈雨
すまんなと　詫びたことなき　父ぽつり	ごっちょさん
父の背に逝きたくないと書いて冬	琴乃夕月
デイケアの　リハビリに泣く　母に泣く	coni
支えるはず支えられてるこの現場	コバリク
さよならも　はじめましても　忘れない	こぼ
「ありがとう」こちらこそだよ「ありがとう」	こまき
負けないで　特効薬は　君自身	こめ
なぜ言えぬ感謝のことば何故言えぬ	ごめんね
駆け抜けた　母のたすきは　受け取った	昆布
ありがとう　だけは忘れず　逝った父	さいま
治療して　花見ができる　ありがたさ	佐伯
来年の桜はどこで見られるか	佐恵子

作品	雅号
目を閉じた　母の頬には　子の涙	沙緒翁
時が経ち　大事な人が　消えていく	酒井一華
まだ生きたい　思い出の地に　また行きたい	さかきんぐ
忘れない　あの日あの時　あの景色	さくら
大変よ　でもねこの手は　離さない	さくら
じっと見る　子になる母と　にらめっこ	サクラモチ
「死ぬもんか」　嘘が嫌いな　母の嘘	さごじょう
大丈夫　父のそばには　僕がいる	佐々木
ありがとうと声に出そうと決めました	笹谷豊子
帰り用　持ち込んだ靴　履かぬまま	サチ
いつまでも　子のままだった　母の前	さっち
見守りも　立派なケアと　知る夜勤	さと村
ありがとう 笑う陽だまり 泣きそうに	佐野美波
お姫様　抱っこする父　軽過ぎる	三郎
「もうお帰り」明日の仕事を気遣って	さんごしょう
俺のせい　摩った脛の　細さかな	じいじ
初孫と　母が歩くよ　歩行器で	じぃじ八年生
送られる日までは送る日を背負う	塩の司厨長
思い出は　あなたの笑顔　あたたかい	シオン
母は言うゆっくり終わる幸せと	しかくいキャラメル
夜勤明け　布団で気付く　言い忘れ	しきのみこ
最期だけ　約束破り　逝った父	しなやかーる
ありがとう　心からでる　そのことば	しばっち
「まだ死なねぇ」　笑って言うな　泣くだろが	渋川丸
いいんです　涙こらえて　側にいて	島風
記憶にはあなたひとりが咲き誇る	島風ひゅーが
死ぬ予定　なかったでしょう　お義母さん	島根のぽん太
亡き妻と　今また旅の　道連れに	島村冬樹
歩けたね　昨日の涙　今日は花	ジャック
大丈夫!! 笑顔のウラで 泣き叫ぶ	ジャンボママ
正解が　わからぬままに　父看取る	手芸人
中段に手をのべ母の担送車	十猪
母乗せて　押す車イス　父の杖	純生

作品	雅号
忘れても 毎日言うよ 大好きと	笑
「ありがとう」よりも聞きたい「バカヤロー！」	章香堂
もう充分　母は何度も　繰り返し	盛水
もう一度　生まれて来ても　あなたの子	祥雪
幸せな　思い出だけの　今の母	しょうた
認知症　揺れる記憶に　そっと触れ	しょうぴ
我が胸に　母は生きてる　咲いている	食眠
静寂の　病室に鳴る　鳩時計	白犬
老いた手に　老いた手重ね　「ありがとう」	シロー
生かされず生きていく意志受け止める	しろくま
眠ってる　病床の母　泣き笑う	白髭
忘れ物　あなたは取りに　行っただけ	しん
ありがとうは交差する程あたたかい	進一郎
武骨さの　消えた骨張る　背に涙	新月うさぎ
会いたかった　最後になった　あの電話	シン・ゴジラ
逝かないで　あなたの代わり　いないから	新屋洋子
我が侭な父よ　無言にならないで	翠夏
まご忘れ　子を忘れても　母は母	末っ子
年重ね　歩いた道を　忘れてく	洲鎌優美
その姿　いつか誰かの　夢となる	スズ
さよならと　手を振る父に　またねでしょ	すずめ
本当に　生きててくれて　ありがとう	STAR
親孝行　まだ途中だよ　逝かせない	スミレ
見て雪が　点滴の腕　窓を指す	すみれ
生きるんだ　生きるんだって　目が叫ぶ	セイ
この介護　わが行く先の　先達者	井蛙
「スマナイ」と　言われ「ゴメン」が　言えなくて	誠晏
白衣の背　ひと息深く　力込め	関太郎山
感謝しかない病床に手を合わす	せきぼー
ありがとう　その一言で　背が伸びる	ぜろ
ありがとう 噛み締めながら 次の部屋	仙骨隆々
一匙ずつ阿吽の呼吸父と母	千里同風
躊躇わず言えばよかった大好きと	續々

作品	雅号
逝く妻へ　悲しみ超えた　ありがとう	そんちく
この絆切れない記憶途切れても	たあに
車いす　小さくなった　親父の背	橙色の満月
無事暮れた 感謝でそっと 見る寝顔	太陽とそよ風
直葬でいいよと云って母は笑む	沢庵
その話聞くよ二度でも三度でも	拓ちゃん
忘れないわたしが生きている限り	竹とんぼ
一瞬で　元気になれる　ありがとう	たこすけ
おめでとう！　ばかりではない　退院日	たつくり
「忘れてもいいよ」の笑顔忘れない	立田渓
ありがとう　言えぬ人にも　尽くしきる	たなか
そばにいる　産まれるときも　逝くときも	田中時凪
あなただけ人間扱いしてくれた	田乃無骨
まだ生きたい　孫の笑顔に　そう願う	たぴ
寝たきりの子より長生き誓う日々	たまさもち
ありがとうと　言われることに　ありがとう	魂
囲まれて父の最期の握手会	たまのいわし
お母さんお願いだから頑張って	たむぞう
白衣脱ぎ　涙ぬぐって　帰る道	たろう
私には　見せぬ笑顔の　母がいる	団くるみ
俺のこと　わからなくても　ありがとう	ダンディムラムラ
喜寿米寿　天寿来るまで　あなたの子	蒲公英
「おはよう」の父母（ちちはは）の声思う朝	ちうう
名を忘れ　子まで忘れた　母がいる	ちかちゃん
「ありがとう」　今日は何度も　言えました	チセ
寝る祖父のシロツメクサも摘めぬ指	千船早帆
違う名を　呼ぶ父のそば　寄り添って	ちゃこぴ
最期まで父は昭和の人でした	ちゃったマンゴー
看取ること　寂しい辛い　代わりたい	ちゃりんど
話したいまだ伝えたいこれからを	忠一
いつからか　介護日誌が　恋文に	ちゅんすけ
その傷が あなたの道を 伝えてる	ツキ
亡骸を　抜け殻と言う　おばあちゃん	都冬夢

作品	雅号
生きている　それすら悔やむ　身の不自由	つばめ
私の名呼べぬ母呼ぶ何度でも	つべる
痛いのは　どこより財布　身にしみる	ツルボン
命とは　問い続けてる　この場所で	テオジル
孫あやし　遊んだ母が　あやされて	デシ
車椅子　初めて乗った　父の顔	でじゃぶー
「何事も　急ぐな」言うて　何故急ぐ	てちにゃん
あらどなた　子だと言えずに　手を握る	デッサン
鍵かかる　病棟残し　母ごめん	デニム
母の手をさする不孝を詫びながら	手まり
血圧と　悩みをそっと　測る朝	てんちゃん
握った手握り返してありがとう	土居耿
贖罪を 済ませて兄は 旅立った	都井の風
窓の外見る横顔に父がいる	糖質無制限
介護される　身にもあるぞよ　介護疲れ	豆風
その時が　きてもあなたが　いてくれる	桃李
この施設　いいねと母は　涙して	棟六
聴こえずとも何度でも呼ぶ｢おじいちゃん、｣	とかげのしっぽ
忘れても　いいよ私が　忘れない	朱鷺
見送って　結ぶ最後の　親孝行	道産子
言わないで「幸せだった」まだはやい	とし
車椅子　乗って花見を　来年も	となみ
また明日　言ってくれるか　君の笑み	とも
過去は過去　いいのそれでも　する介護	ともきっず
また明日　言える幸せ　帰り道	ともさん
泣くな俺母の自慢の息子だろう	とも蔵
廊下へと　洩れる嗚咽の　午前二時	とよ爺
孝行は不安な顔を見せぬこと	どらまにあ
血管よ　逃げずにじっと　そこにいて	ナインナース
父のいた　ベッドの角度　戻せずに	なおきん
命とは　問いかけながら　手を握る	なかむら
夜勤明け 疲れた顔に 咲く笑顔	なかろ
静かなる　ガンコ親父の　オムツ替え	鳴き砂

作品	雅号
祖母座椅子道行く人をただ見てた	なし
ごめんねと言わせてばっかりでごめん	夏島有
ありがとう　届かぬままに　また一日	夏蜜柑
買えません健康という財産を	奈菜子
母の声母の手母を思い出す	七瀬　椋
また来てね　帰りたいとは　言わぬ父	ななな
素っ気ない『ありがとう』でも『ありがたい』	なみや
ありがとう　その一言が　明日の糧	なゆた
生きる意味　あなたの笑顔　守りたい	なるち
薫風にあなたの気配感じ取る	南平太
ひっきりなし　昼夜を問わず　鳴る電話	和心
大部屋の　夜半の遠慮の　咳ひとつ	西大路湖山人
諦めじゃ　ないぞ！覚悟だ！　いざ病！	ぬえ
会いにゆく　孫に娘になりながら	温水ふみ
忘れない　現場に感謝　あの世でも	猫ザウルス
生きつくしなお生きつくし眠る母	ねこ77
臨終に零れ落ちてくありがとう	ねこまき
点滴を引きずりながら花見道	猫柳
手と手と手 独りじゃないよ 僕もいる	のぐろっけん
来ていない娘が来たとはしゃぐ父	ノソノソ
「いたい」より　「会いたい」と父　子に伝え	のりのり
何をすれば　覆水盆に返るのか	はかま
泣きながら 笑顔つくった 夜勤明け	白衣の戦士
夜勤明け　シャワーで気付く　伝えなきゃ	はしゃぐ年子の心
父さんの駄洒落も一度聞きたいな	ぱせり
骨細る　母の髪梳く　春の風	ハチ
笑ってて欲しくて私笑ってる	初貝みな
痛くても　父は笑顔を　絶やさない	はっちおーじ
背を撫でる背負ってくれた人の背を	花一匁
親指に　残る温もり　母の脈	はなはな
肺の壁痛さ伝わる息の音	羽馬愚朗
力なく　握る手の荒れ　母の生	ばばりん
病床の父案じつつ葱は伸び	浜ぶどう

作品	雅号
立ち上がる勇気のそばにいつもいる	羽茂祐子
なあオヤジもう頑張らなくていいんだよ	隼人
冥途行く待合室は混んでいた	原田和夫
生きたいと　願う心が　生命線	遙
さよならは　言わない今日も　また明日	はるちゃん
先生の　その一言で　救われる	はるはる
他愛ない会話心が泣いている	はるひさ
もういいよ　ゆっくりしてよ　休んでよ	はるま
笑みながら　母は置いてく　涙の子	はるやす
その時が　今だと知って　ただ縋る	ハルル
共倒れディサービスに救われる	万愚節
笑ってる　泣くな泣くなと　父の声	ばんぶー
はじめからやさしい声の人でした	ばんぶりん
あぁ泣けない 泣けなかったと 嘆きたい	畢
丸くなる父の姿に襟正す	ピーコック
縛られど なおも探して あの頃を	ぴぃな
しゃべれない　あなたの気持ち　届いてる	氷川葱味噌
吸飲みや役目を終えて息をつく	翡翠
分かってる　覚悟もしてる　けど逝くな	びっぐべいびー
欲っされて　ほっとした顔　ほっとする	日付日和
毎日が　母と私の　最初の日	ひでじい
母の背を　さすって戻る　幼き日	ひでぽん
言うてきや！　愚痴も辛さも　楽しさも	日々平和
夏祭り花火見つめるガラス越し	一二三文
世話をする　私に母が　世話を焼く	風信子
思い出を　いっぱい備蓄　放さない	ビリケン真
車椅子の母が見上げる初桜	ヒロ
最期まで痛いと言わぬ父でした	ひろＰ
「まだ大丈夫」　強がる父の　手が震え	枇杷
緊急は想定外の顔認証	びわしゅ
辛くても　泣かない母の　嬉し泣き	ファンタ爺
何度でも　あなたがくれた　名を教え	ぶー
死んでも死なん！と約束したじゃない	プーちゃん

作品	雅号
あまのじゃく　逝っていいよと　言ってない	深澤　健聖
メモの裏　そっと書かれた　「ありがとう」	不屈の屈葬
「元気だよ」消灯前の電話口	ふくろう悠々
番号で呼ばれて我と気がつかず	ふけ老人
神に乞う！逝かすな母を　まだ早い	ふじちゃん
母背負い　肩に雫の　わすれもの	不詳の息子
泣かないと 決めて隠れて 涙する	ブラックココ
ボクの為怒鳴って泣いてくれた父	ふわふわ
手を握り　時よ止まれと　念じた日	文案堂
ありがとう　守ってくれた　大きな手	分水のさくら
逝く日まで　頑固な父を　演じ切る	蛇のとぐろ
「死んだんか？」　目覚める父に　「生きてるよ」	べるちゃん
生きざまがその逝きざまが道しるべ	歌井ぼうかる
同室の患者同士の同志感	ホープマン
手は貸した　立てるか母よ　足を出せ	北房あさゑ
天国で親父が叫ぶまだ来るな	ポコあペコ
どの神も　人を殺せと　説いてない	星新
足腰の分まで口は良く動く	ぽっくん
車いす母と思い出乗せて押す	ほのぼの
母を看取り家を見取りて父冥す	ぽわろ
名も顔も　忘れられても　父は父	まーきん
ありがとう拙い文字に涙する	真壁真治
苦しみを隠す優しさ君らしさ	まさみ
この人の命預かる介護人	マジかよてっちゃん
逝かないで　唯一無二の　お母さん	松庵
一番の　特効薬は　その笑顔	松依花奈
もう泣くな俺の余命も半分こ	マッサン
抱かれた母を抱えて車椅子	まっさん
孫と呼ぶ　その子は君の　子供です	マッシー
看護され 看護しようと 決意する	松田少納言
この皺がぼくを育ててきた証	松村波光
サヨウナラそしてあなたへアリガトウ	まつもともとこ
謝るな　心配するな　気にするな	真夏日

作品	雅号
母が逝き　逝かぬと言った　父逝った	招き猫ひーちゃん
満開に母を誘って車椅子	豆の蔓
真夜中に 帰宅願望 私もです	迷い猫
子が見えぬ母の瞳に子は映る	茉莉亜まり
告知された　あなたの明日を　手伝おう	麻呂
年令を　<もう>と<まだ>とで　使い分け	万年幹事
ありがとう　何度言っても　まだ足りぬ	みかん
母さんを　宜しく頼む　逝くな父	みかん
聞けたなら　父の小言を　もう一度	美柑
あんただれ　今日も始まる　自己紹介	みこちゃん
俺は父　父は俺なの　おばあちゃん	ミサキラブ
先生に　話す練習　昨夜から	みずいろてがみ
できぬこと　カルテに書けず　抱きしめる	Mr.X
待ちわびた　退院の日に　友の顔	三清
命継ぐ たった1錠 託された	三編
まだ呼ぶなやりたい事が山と有る	みっちゃん
「ありがとう」それは私のセリフでしょ	ミナト
忘れない　私の母は　あなただけ	みなまる
見届ける　生き切る母の　ラストラン	ミニトマト
母が逝く私に笑い皺遺し	ミファ
握る手に　脈と願いの　鼓動聞く	みやこ
そばにいる　それがわたしの　できること	宮のふみ
失声の　私の想い　さあ届け	みやび
忘れてもそばにいるから生きていて	深雪
嗚咽から　溢れ出てくる　ありがとう	みゆきち
記念日を　避けて優しい　母が逝く	みらいむ
この時を集う命が生きている	みれまま
できないが　できるに変わる　喜びよ	みわ
恩返し　私は何が　できるのか	みん
ドアが開く　そこに貴方が　いて欲しい	みんとと
不安でも　なんとかなると　信じてる	みんみん
寄り添ってただ寄り添って側にいる	ムギ
またあした　そんなあしたが　くればいい	無色

作品	雅号
「ありがとう」は　わたしがママに　言う言葉	ムレチコ
父よ待て　どうか着くまで　逝かないで	盟主クサイ
病室に　差し込む光　生きる意味	めーぷる
てふてふに乗れたか母よ「また明日」	めめんと森
言わないで　遺影になんて　まだ早い	めろん茶
抱きしめる　母の着替えに　ある温み	木星
生き地獄　生きてほしいと　願う夜	もち代ママ
亡き父の　最後の言葉　母頼む	もっちゃん
腰曲がり首曲がってもへそ曲げず	物見遊山
ひたすらに　生きた親父の　太い文字	桃太郎
四季巡り死期迫り来る日々を抱く	桃乃茶
ありがとう　もっと言わせて　ありがとう	モモンガ
言い聞かす　慣れに慣れるな　我が看護	もゆあ
おんぶした　母は軽くて　あたたかい	もりのひと
母ちゃんよ　ライスカレーを　もう一度	モンテカルロ
祈るのみ 生きる灯火 明ける夜	やーくん
母がしてくれた通りに母を抱く	八木　五十八
謝辞を云う 母の最期に 見た涙	安田蝸牛
トイレまで今日もふたりの旅をする	箭田儀一
何度でも　父の子として　生まれたい	やっち
お母さん　窓の桜が　呼んでるよ！	八十日目
誰がやるもう動いてる手と手と手	やぶさめ。
また来るね　祖父と交わした　もうこぬ日	やましょう
点滴の　リズム重ねる　母の息	やまととろ
ありがとう なんて言うなよ まだ早い	やまとも
父と母　初めて見せた　涙顔	やまとゆう
幾度でも　笑顔で聞くよ　その話	やまびこ
一匙に　こもる優しさ　かみしめる	やまびと
親父さあ　笑い過ぎだよ　遺影写真	山法師
「ありがとう」いや、こちらこそ ありがとう	ゆう
三途の川行くな渡るな舞い戻れ	ゆう
助からぬ　悟って尚も　尽くす人	由羽
忘れない母の最期の深呼吸	夕凪

作品	雅号
あと一匙食べて食べてと目が拝む	郵呆
笑ってよ　独りじゃないよ　俺が居る	ゆうゆう
おはようと　明日また言える　それだけで	ゆーらら
帰ります　いったい何処へ　ここは家	ゆかり
小さな手、生まれてくれて、ありがとう	雪男
忘れない あなたがここに 生きたこと	ゆまち
握手した次の朝にはもういない	夢糸
寄り添って　くれる優しさ　特効薬	ユメ吉
笑い合う友又一人先に行き	夢希望
星になど　ならなくていい　逝かないで	夢子
「あんた誰？」と言われるけれど母は母	夢恋士
ありがとう当たり前ではない介護	夢まくら
忘れても　何度も言うよ　私の名	ゆゆか
ひとしずく　こぼす弱さも　抱きしめる	ゆゆゆ
できたこと　数え治して　春を待つ	ゆりたろ
人体を　創りしものよ　図面くれ	ようよう
無くせない　記憶を糧に　今生きる	柳留人
もう少し　喧嘩したいよ　時止まれ	横ちゃん
天寿まで生きたと言えるがん連れて	吉田　天
あったかい　子の手に引かれ　散歩道	淀太郎
耳遠い母に心を近づける	よもぎ春子
「帰りたい」　その言葉胸　締め付ける	ラーテル
息の音深夜病棟朝を待つ	ラッパさん
見送る父もう会えないと分かってた？	ラン
髪は抜け　されども君は　変わらない	立心琴葉
時は金　いいえ命だ　離れない	龍神
笑うこと それはみんなを 救うこと	りらこ
まだいえぬ みとめたくない さようなら	リン
話したい 離したくない 君のこと	リン
始まりも　終わりも頬の　ひとしずく	りんす
父に詫び母にも詫びる父の通夜	ルーキー
後悔の　ない介護など　ないこの世	ルーク
そばにいる事しかできぬされどいる	瑠珂

作品	雅号
人生(たび)の最期　看させてくれて　ありがとう	ルカママ
手を引かれ　通った道を　手を引いて	るるねこ
母であり同志であって母だった	ルルル
引いた手が　母の苦労を　語りだす	老人生
百歳の 母がほほえむ 春の夢	ろくすけ
生と死の　狭間戦う　戦士たち	わいわい
病床で　母の靴音　父が待つ	和香
日記帳　かすれた文字の　「ありがとう」	わらび
「もう」と「まだ」くりかえすだけ「もう」と「まだ」	わんこなり

以上、500句。